

2021年(令和3年)

第6号

(4月1日)

平安だより

HEIAN letter

発行所：立正佼成会 京都教会
 発行責任者：渉外部長 田中規之
 編集委員長：渉外広報 植田恭司
 〒605-0041 京都市東山区三条東町 230
 TEL (075)762-2211 FAX (075)762-2266

今月のことば ～いまをともに生きる～ 伏見支部 主任 田口委久予

4月の言葉は伏見支部主任の田口委久予が担当させていただきます。

何も分からないまま主任のお役を受けさせて頂き、法座の方に「お役に立たせて頂きたいと思います」と挨拶をしてから、4年目です。

4月号の佼成では、

- ・「楽は苦の種、苦は楽の種」
- ・「生まれによって聖者となるのではない。行為によって聖者なのである」
- ・「まず人さま。損得勘定を超えてわが身を使い、心と言葉を尽くして人を思いやる時、その実践は自分の幸せや喜びとともに、みんなの救いにつながる光明になる」
- ・「慈悲の方便」こそ釈尊の願いに通じる布教伝道の原点、と教えて頂きました。

ご縁を頂いた法座の方は全員が信仰の先輩です。先輩方の求められている動きがなかなか出来ず、ご迷惑をかける事が多く本当に申し訳なく思います。半面、落胆し、悔しい思いもすることもあります。

その時、私はいつも開祖さまなら、会長先生なら、どの様にお考えになるのだろう、悔しいという思いは有り得ないだろうと思い、上記の佼成で教えて頂いた事を理解します。そして教えを信じて精進する事で仏

さまはご褒美をいっぱい準備して下さっている、という言葉を思い出し何度となく心を立て直しています。

コロナ禍で教会、仕事、学校が休みにになり社会全体が止まった時期がありました。我が家でもどう過ごそうか、と相談しました。主人が校長先生、孫が生徒、娘が担任、私が給食員、という田口小学校のスタートです。

9時から朝礼(ご宝前にご挨拶)。休み時間込みの3時限。12時から給食、昼休み。13時30分から2時限、という毎日です。

その間、孫は苦手な科目を克服し、また家族の絆も深まり皆で与えられた時間、状況に感謝しました。

最後に、今回のお役を支部長さんからお話を頂いた時、「私が？文章を書く？」とんでもない、と思いましたが、流れに乗らせて頂くという思いに変え、受けさせて頂きました。

その夜、不妊治療を数年していた息子夫婦から「妊娠したようだ」と連絡があり、電話口でとても喜ぶ息子に涙しました。家族全員、仏さまからのご褒美に感謝の気持ちでいっぱいの夜でした。

今後も日々を大切に、感謝の気持ちで精進してまいりたいと思います。 合掌

あなたのお仕事を教えて下さい ～右京支部 河村光朗さん～

Q：仕事先はどちらですか。

A：現在はダブルワークしています。
自営業とアルバイト。

Q：どのような仕事内容ですか。

A：自営業はキモノに絵を描く友禅染。日本の伝統産業の京友禅。アルバイトはスーパーマーケットの品出しです。

Q：なぜ今のお仕事に就かれましたか。

A：自営は手作りの職人になりたかったのがそもそもの理由で、京都の地場産業だったこともあり、たまたま募集があったため。
それが今から40年前。その後、下積み25年、心構えをしっかりと学び独立しました。

伝統工芸士になるも、このご時世には糸偏産業の低迷のためか今でもひっそりと下積み職人つづけています。思えば25年は厳しく長かったです！だから今があるわけです。ご縁のあった皆さんありがとうございました。

ところが自営だけでは成り立たず副業もすることに派遣も行きまして、ある意味世間の流れの勉強もさせて頂きました。

Q：仕事中心に心掛けていることがあれば教えて下さい。

A：伝統産業ですけれども新しさを出すところが難しいです。品格を失わないような色彩で、25年間で学んだ一作入魂です。

令和3年、私たちは「どこでも道場 祈り祈られ 笑顔と涙によりそおう」を実践して参ります。

京都教会のホームページが出来ました。 <https://rkk-kyoto.jp/>